

動向 NHK「みんなの選挙」にみる 障害のある人と投票

杉田 淳

NHKは2022年の参議院選挙を前に「みんなの選挙」というプロジェクトを立ち上げた。これは、障害があるために「投票に行きたくても行けない、行きづらい」と感じている人たちを支援するため、役に立つ情報を発信していこうというものだ。テレビ、ラジオ、デジタルを通じたキャンペーン的な発信は、総務省が全国の状態を調査し、対応が遅れている自治体に改善を促す動きに結びつくなど反響を呼んでいる。

本稿では、プロジェクトの概要や見えてきた課題、それに独自に行った全国選挙管理委員会アンケート調査の結果などについて報告する。

1 「みんなの選挙」の始まり

障害者にとっての参政権の問題は以前から指摘されてきた。NHKでも散発的にニュースで取り上げることはあったが、十分だったとは言えないだろう。実際、政治や選挙の報道に長年関わってきた私もいざプロジェクトが始動すると初めて知ること多かつた。プロジェクトには、ふだんニュースを担当する報道局の記者とEテレの福祉番組「ハートネットTV」を制作するディレクターが集まった。内部の事情を明かせば、このような連携は極めて珍しい、お互いの長所を發揮し、短所を補い合う中で多くの発信が行われている。

一つエピソードを紹介する。当初、プロジェクトのタイトルは、「やさしい選挙」だった。「優し

くて易しい」、そんな意味を込めて記者が発案した。しかし、ディレクターから異論が出た。「参政権は当然の権利で、これをどのように保障しようか」という話に『やさしい』はふさわしくない。そんな議論を経て、「みんなの選挙」プロジェクトは誕生した。

なお、筆者である杉田は、NHKで唯一の視覚障害の記者である。本稿はパソコンのスクリーンリーダーを使って書いている。日常生活に不便を感じる障害者が非日常とも言える投票行動にたどりつくまでどんな困りごとがあるか、身にしみて実感できる立場から取材を行っている。

2 特設サイトをプラットフォームに

「みんなの選挙」の特設サイトは、障害のある人にとって知っていると便利な「役立ち情報」や実際の投票をめぐるエピソードを取材した「各地の動き」、選挙のトピックスをできるだけ簡単に説明する「わかりやすい言葉で」、取材の裏話などを読み物で紹介する「コラム」、当事者たちの体験を募集・紹介し、双方向の情報交換をはかる「ご意見コーナー」からできている。テレビで放送された内容を動画で見ることが出来る。

誰にでも利用しやすいユニバーサルなデザインを目指して、文字の大きさを変えられたり、動画にテキスト情報をつけたり、記事に音声ファイルを加えたりと、「やれることは何でもやろう」という心意気でやっている。

3 寄せられた「投票の壁」

それでは、障害者にとって「投票の壁」とはどのようなことなのか。まずは特設サイトに寄せられた意見の一部を紹介する。

▼下肢障害があり自力歩行が困難です。地域の投票所は遠い市役所か車でしか行けない地元の集会所です。その集会所は普通の民家で、玄関のたたきから1人では上がりず、もちろん車椅子も歩行器も上げられない場所です。この身体になってから、一度も選挙に行っていないです。辛いです。

▼白杖について地域の投票所である小学校へ行って投票していました。家から小学校校門まで約500メートル、校門から投票所である体育館までは100メートル以上あります。学校敷地内は普段歩くところではありません。当然点字ブロックもありません。投票日に学校敷地内を走る車に何度かはねられそうになりました。毎回続くので、それからは期日前投票所に行くようにしています。

▼東京都などで使われている、コミュニケーションボード、耳マークと共に、投票の垣根をぐんと下げてくれました。以前は何を言われているかわからず、投票受付のコミュニケーションも緊張が伴いました。コミュニケーションボードが用意されるようになってからは、窓口での意思疎通がやりやすいです。「投票券を忘れた」を指差すことで、確実に通じます。安心して投票できます。

▼すぐに実現できそうなものとして候補者欄、政党名欄に丸を書くか□の中にレ点でもいいからチェックで良いようにする少しは楽になるし、政党によっては按分しないといけないという事態もなくなるのでは？と、予算もそれほどかかりませんし大きく制度を変える必要もないかと思うのですが…上肢機能障害なので書く手間がしんどいんですね。毎回選挙は欠かさず行ってますが。

▼軽度知的障がい者の家族がおり、一緒に投票に行ったときのことです。前もって決めていたものの、投票する名前や支持政党を書く用紙とか場所がわからず、隣りにいた私に小さな声で尋ねて来たところ、係員の方に相談しないよう大きな声で注意を受けました。前もって知的障がいがあると説明しなければいけなかったのでしょうか？大勢人がいる中で言い訳もしたくなかったので、何も言わず投票もせずに帰宅しました。

それ以来怖がって投票に付いて来なくなりました。投票率を上げる努力をしているのはどこなのか、いつも疑問に思います。相談しないでと上から目線の注意より、何かお困りですかと聞いてくれたら、印象が全然違ったと思います。

▼点字で投票した場合、どなたが解読されるのか気がなってます。点字投票する人が私の住む地域で何人あるかわかってませんが、点字投票した投票用紙がその後どのように処理されるかを教えてもらうためには各地の選挙管理委員会へたずねればよいのでしょうか？全国的に決まっているようなことがあればお教えいただきたく投稿させていただきました。

▼選挙に行くたびに、個人のプライバシーが尊重されていないように感じて、不快感を抱きながら帰路につきます。その一番の理由は、投票する人が誰なのか知られてしまうということです。ヘッドフォンから流れてくる候補者の名前の所でボタンを押すと、自動的に候補者の名前の所にチェックがつくとか、名前の上とか下に穴が開くようなシステムがあれば誰にも知られずに、自分でおこなった安心感はあると思います。

▼視覚障害があるため、点字投票を利用しています。このサイトの紹介によると「自分の点字器を使用してよい」とありました。はじめて知りました。毎回自分のを持って行って係の人に尋ねると、「選挙管理委員会に電話で問い合わせします」と言われ「委員会もわからないので会場の点字器をお願いします」と言われたり。何も言わずにいきなり取り上げられて、会場の点字器で書くことになり、帰り際に自分の点字器を返してくださいという、「どこにやったかわからないので探します」と言われて、時間がすごくかかったりということになります。せめて、一度マニュアルを読むよう促してもらえ周知するというルール作りをしていただくことは負担でしょうか？

▼聴覚障害者です。選挙演説に字幕を必ずつけて欲しいです。街頭演説も同じです。投票所はいつも静かで、手招きのみ案内です。ジェスチャーが人によって違い、分かりにくいものもあります。手順や、方法は、文字で分かるように掲示しておいてほしいです。

その声は実に多様で切実だ。障害のある人にとっての投票の壁は、大きく3つに分類されると考えられる。

- ◎投票するための情報を得るまでの壁
- ◎投票所に到着するまでの壁
- ◎投票所内で投票するまでの壁